

令和元年度 保育所実習

保育所実習担当 伊藤 昭博・大元 千種・木戸 貴弘・菅原 航平
谷川 友美・中山 正剛・山本 裕一・米持 広美

平成31（令和元）年の保育実習は、保育所実習ⅠA（保育所）を1年次2月に、保育実習Ⅱを2年次の8月下旬と9月上旬の2期に分けて、県内外の公立保育所・私立保育園・認定こども園にて実施した。

実習に向けて2年間実習指導を行った。1年次では、保育所実習ⅠA（保育所）の事前指導として、実習の意義・目的・内容の理解、文書作成時の注意点、指導案・日誌の書き方などについて指導した。2年次前期は保育実習ⅠA（保育所）の事後指導としての振り返りを行い、それを踏まえて、保育実習Ⅱに向けての模擬授業、指導案・日誌の指導を行った。2年次後期は保育実習Ⅱの振り返りを丁寧に行い、また、1・2年合同授業にて1年生を指導する機会を持った。これらを通し、改めて実習の意味を実感し、保育者となることへの自覚を促すことができたと考える。

*

1. 実習先 保育実習ⅠA（保育所）・・・大分県内 113件 県外 9件
保育実習Ⅱ・・・・・・・・大分県内 115件 県外 9件
2. 実習期間 保育実習ⅠA（保育所）・・・平成31年2月6日～22日
保育実習Ⅱ 1期・・・・・・・・令和元年8月16日～27日
2期・・・・・・・・令和元年8月30日～9月10日

3. 保育所実習の意義・目的

- ①子どもと直接かかわることにより、気持ちや心身の発達について理解する。
- ②保育所の一員として活動することにより、保育所の役割や保育士の職務について理解する。

4. 保育所実習の様子

- 1年次2月の実習はインフルエンザ流行期に近く、病欠が多発するが、2年次はほとんど見られない。
- 原則として1年次と2年次に同じ実習先に行くため、学生の成長を認めていただけている。
- 学生は、0歳から6歳までの子どもたちとの関わりを通して、年齢による発達の違いを目の当たりにし、発達過程の理解と発達に応じた保育の必要性を実感している。

5. 保育実習を担当して

2年にわたる保育所実習指導を通して見えてくる学生の変容から、実習体験の影響力と実習後の振り返りの意義を痛感している。学生の保育職へのモチベーションや保育の質をさらに高めるため、指導体制の改良に努めるとともに、実習先と養成校との協同体制の強化にも努めていきたい。

保育者の姿を見て

初等教育科2年 池添 摩希

私は保育実習を通して多くのことを学びました。まず、子どもたちと毎日かかわる大切さです。昨日と違う様子だったり、何か出来事があったりしたときに、いち早く保育者の方が気づき、「何かあったの？」や「昨日なにをしたの？」など、さりげなく声掛けをして子どもたちの口から聞かれています。また、うまく答えることができなかつた場合は、連絡ノートを見たり、降園時に保護者に聞いたりするなど、様々な工夫をされていました。

また、見守る援助の大切さも学びました。私は、5歳児担当で、5歳児は自立心が育ってきていました。自由活動中に、「もうやめて」という声が聞こえ、そこを見ると先に積み木を立てて遊んでいたI君のところにK君が入り、積み木を立てようとしていました。それをI君は嫌がっていましたが、K君は夢中で積み木を立てていました。話をしたほうが良いと思い私が行こうとすると、N先生に「少し見てみよう」と言われました。そして、何分かつたっても解決していないのを見て、N先生が「どうしたの」と声をかけに行き、二人と話をしていました。その後、少し待った意味が分からずN先生に質問をすると、「すべてにはじめから行くのではなくて、少し様子を見ることも大切だよ」と自分たちで解決する力を育てるため、見守る援助をしていると教えていただきました。それは、非常に難しいことだと思いましたが、子どもたちの成長にはとても大切なことだと思いました。

私が、実習中に難しいと感じたことは、喧嘩をした子どもたちに対してお互いが納得する声掛けをすることです。「先生S君がぶつかってきた」と活動中に言われ、二人に話を聞くとお

互い悪いという内容でした。そのため、「どちらが悪かったからごめんねしよっか」と声掛けをして、その場を取めました。その後、自分の対応が正しかったのか、どう対応したらよかつたのかわからず、保育者に聞きました。すると、「対応に正解はないよ。だから、何度も違うことを試してやるのが大切だよ。」と教えていただきました。未だに少し難しい部分もありますが、子どもたち一人ひとりの最善の利益につながるようにこれからも試行錯誤していきたいです。

また、給食の時の声掛けや、量などを考えるのが難しかったです。偏食がひどく、減らしても食べない子やお弁当しか食べない子など、様々な子どもたちがいました。園では、まず、挨拶をしたあとに、保育者が給食を減らす子どもたちのテーブルを回り、「何を減らしてほしいですか」と聞き、子どもたちの口から「○○です」と答えるようにしていました。その時に、「これだけは頑張ろうね」と約束をしていましたが、時間がたつにつれて、子どもたちはいやという気持ちが増し、箸をつけることすらなくなりました。私はそれを見て、「先生と一緒に頑張ろう」と声をかけたり、「これを頑張れたらいいことあるよ。」と気持ちが高まるように声をかけたりしました。その時に食べてくれた子どもたちを見てとてもうれしい気持ちになりました。

この、10日間の保育実習と前回の実習を通して、私は気持ちの面などで大きく成長することができたと思いました。園からの反省点などを生かして、これからもっと立派な保育者になれるように頑張りたいです。

子どもたちが「遊びたい」と 思える工夫を

初等教育科2年 後藤わかな

保育所実習Ⅰでは、部分保育はせず観察だったので、子どもたちと関わる中で会話を行ったり、一日の流れを知ったりすることができました。会話を行う中で、子どもの気持ちを考えながら発言しました。自分の気持ちをわかりやすく子どもに伝えることはとても難しかったです。読み聞かせも緊張して本ばかり見ていたので、子どものほうを見るように指導されたことを覚えています。

保育所実習Ⅱでは、Ⅰに比べて部分保育での遊びを考えるなど、実際に保育士になったように指導を行わなければならなかったため、とても勉強になりました。私は外での遊びを行いました。うちわボールリレーを行ったのですが、子どもの発達段階では難しく、盛り上がりませんでした。子どもができるように、ボールはとげとげのボールにして、うちわも大きいサイズのうちわで行いましたが、なかなかうまく行えませんでした。子どもは、自分の体でボールを支えていて、うちわでボールをバランスよく支えているのではなかったため、子どもの発達に応じた遊びではなかったと反省しました。その後ボール遊びを行いました。うちわボールリレーよりはうまくいきました。ボール遊びの二回戦目に入るときに、ずっと外で暑い中面白くない遊びをするのだろうと思ったのか、「もうせんでいい。」と言っていたので、とてもショックが大きかったです。その時私は、「もう少して終わるからね。」と子どもに対して発言をしてしまいました。

部分保育の反省会では、担当保育士に「もう少して終わるからと言ったことは、子どもたちに無理をさせてやらせているような感じがする

よね。もっと子どもたちからこの遊びしたいって言われたほうが嬉しいと思わないかな。より簡単な遊びを工夫したり、子どもの声掛けももっと違った言い方をしたりしたら良かったんじゃないかと思いました。」と言われて、子どもの気持ちを考えて発言できていなかったと思いました。子どもに無理させてまで遊びを続けていたので、違った遊びに変えてみるなり、子どもたちができる楽しい遊びを考えることが大事だとわかりました。

子どもと関わる中で子どもから教えてもらうことが多くあり、自分にとって成長できた実習になりました。子どもが成長していくほど、自分でできることは増えていくので、できることを伸ばすような声掛け・遊びの工夫をしていくことの大切さが保育実習ⅠよりⅡでわかりました。読み聞かせは、その日に食べたすいかにまつわる絵本を読むなど、絵本選びにもこだわって行えたと思います。保育実習Ⅰで指導を受けたので、子どものほうを見て読み聞かせが行えました。また、子どもが喧嘩をし始めた時に、どう声をかければよいか保育実習Ⅰではわかりませんでした。Ⅱの実習では子どもの気持ちを尊重して声をかけることができました。

子どもから学ぶことが多い実習となったので、今後働き出してもこの実習で学んだことを活かしていきたいと思います。

喜びと実感

初等教育科2年 志水 結

保育所実習では、絵本の読み聞かせや紙芝居の読み聞かせをする機会が多くあり、とても自信に繋がりました。読み聞かせをすることは目標でもあったので、達成することができて嬉しく思います。また、子どもたちは、長い文章の

絵本や紙芝居でも集中して聞いてくれたり、問いかけには大きな声ではきはきと答えてくれました。さらに、強弱をつけると驚いてくれたり、ニコニコと笑ってくれたり、実際に子どもたちの反応をみることで私自身とても学ぶことが多かったです。他にも、導入の手遊びではリクエストをしてくれたりして、この手遊びがみんな好きなんだと子どもたちから知ることができました。今後もこの体験を生かしていきたいと思います。

設定保育では、5歳児で紙コップ風鈴の製作をしました。2年生前期が始まると同時に何回も指導案を書き直し、やっとの思いでやりたいことが見付き、指導案を園に提出したとき、担任の先生に「誰が見てもわかりやすい指導案です。」と言われた時は嬉しくてたまりませんでした。そして、事前に担任の先生と何度も打ち合わせをして、前日に担任の先生から「大丈夫、やってみよう。」と言われ、本番は多少の緊張はあったけれどスムーズに成功することができて本当に良かったです。子どもたちも、私の長くて早口になっている言葉を聞き逃さず理解してくれて、子どもたちにも助けられました。また、シールを貼ったときや、完成したときに「かわいい」や「楽しかった」など言ってくれて本当に嬉しかったです。いろいろと下準備など多く大変なこともあったけど、子どもたちが喜んでいる姿を見てとてもやりがいを感じました。私が保育者になったときには、反省会の時にいただいたアドバイスをもとに、もっと良い内容にして子どもたちと楽しみたいです。

他にも、4歳児、3歳児のクラスにも入りました。個人差が大きく一人ひとりに合った援助、声掛けをする保育者の姿を見て、ただ手伝うのではなく、子どもに対して質問をしたりしながら子ども自身も今やるべきことは何なのか気がついてもらうような声掛けをすることが大切だと学びました。また、片付けなどでトラブルに

なったときは、「半分ずつ持っていくといいよ」など、したい子みんなが参加できるような提案を伝えることが大切だと思いました。保育者の一つ一つの行動、声掛けが子どもたちの成長につながると実感しました。

5歳児は自分のことは自分でやり、他の人のことも気づいたらするなど、ひと味違うと思いました。今は話をしているとき、今は静かにするときなどメリハリがあり、素晴らしいと思うことばかりでした。保育者も必要なことだけを伝え、子どもが考えて行動できるようにしていたのではないかと感じました。

保育所実習では自信に繋がることもあり、とても充実した実習になりました。これらのことを生かして日々努力して成長していきたいと思いました。

子どもの気持ちに寄り添う 保育者をめざして

初等教育科2年 土居 華乃

私は保育実習で様々な事を学びました。特に自分の中で印象に残っているのは、部分実習です。

実際に子どもの前で保育を展開するのは初めてだったので、とても緊張していたし、不安に思っていました。しかし、指導案を先生方に見てもらって一緒に話し合いをした時に、先生方が私達もしてみないとどうなるか分からないけど、私たちも全力でサポートするからと言ってくださって、その言葉が非常に私の中でささえになったと思います。当日はやはり緊張したのですが、先生方はもちろん子どもに助けられた部分も多くあったと思います。どれだけ準備していても、実践をしてみないと気づけない部分は本当にたくさんあって、反省点もとてもある

けれど、自分にとって得るものは多くてとても勉強になりました。子どもたちの前で保育の実践を体験してみて、改めて保育の仕事に就きたいと思うことができました。部分実習を終えた後に先生方からお褒めの言葉やアドバイスなどをたくさんいただけて、より学びが深まったし、保育という職業のすばらしさを感じ、自分の自信へと繋がりました。臨機応変に対応することのできる柔軟性が大切だと感じたので、実際に保育の現場に入って行く中で身につけていくことができたらよいと思います。

また、午睡前などのお集まりでの絵本の読み聞かせや、導入の手遊びをする機会を先生方が作っていただきました。絵本を選ぶところからしたのですが、活動や季節に合わせた絵本を選ぶ難しさと大切さを実感しました。その時、同じ時間に絵本を選んでいて先生に絵本を選ぶ時のポイントを聞いたら、「子どもたちの興味をひくものはどれかな?と考えたり、自分が読んでみたい!おもしろそう!と思った絵本を選んだりすることで、子どもたちも同じ気持ちで絵本を楽しむことができるよ」と、教えてくださいました。その助言をいただいたら、スムーズに絵本を選ぶことができ、ただ選ぶのではなく、ねらいや願いを持って選ぶことが大切だということを学ぶことができました。

普段の生活で子どもと関わるときもそうですが、手遊びも読み聞かせにおいても子どもの目をしっかりと見ることが大切だと感じました。子どもの目を見ることで、一緒に楽しむことができたり、言葉や場面によって子どもたちがどんな反応や表情をするのか見たりすることができるので重要なことだと思います。

この十日間で、様々な行事や活動を通して、多くの学びを得ることができました。さらに、子どもたちの様々な姿を見ることができて、とても勉強になりました。子どもたち一人ひとりの様子を普段からしっかり見ることで、言葉か

けの方法を変えたり、ちょっとした変化や成長に気づいたりすることができると思いました。今回の実習、部分実習で学んで得たことは将来、保育者として現場に実際に立ったときに、自分にとって大きな支えや自信になると思うので、大切にしていきたいと思います。これらの経験や学びを生かし、自分が理想とする「子どもの気持ちに寄り添い、それに合わせた援助ができ、責任感、そして向上心を持った笑顔あふれる保育者」になれるよう頑張っていきたいです。

大きな学びとなった保育実習

初等教育科2年 佐藤 彩乃

保育実習を通して、保育園での基本的な1日の流れや保育内容・援助方法や子どもの姿等、授業では経験できないことをたくさん学ぶことができました。特に発達面では授業で聞いてもなかなか頭の中ではイメージができなかったり、難しいと感じたりしていましたが、実習を通して何歳児がどんなことができるのか、発達に合わせた支援はどのようなことをしているのか、友達とのかかわりや遊びの内容等、実際に見て関わることでより詳しくわかりやすく理解することができ、実習をすることの必要性や子どもの実際の姿をみることの大切さを学ぶことができました。また、次の二点が特に印象に残りました。

一つ目は、子どもたちには個人差があると聞いていましたが、本当にその通りで、年齢にあった各クラスの保育活動をしながらも一人ひとりであった支援をすることの難しさも感じる事ができました。特に月齢の低い子どもたちは、入園時期にも差があり、その分排泄習慣や衣類の着脱習慣、保育園での生活習慣にも差があり、その個人差に配慮しながら声掛けや時間配分を

することは大変だと思いました。しかし、大変な分ちょっとした成長も非常に大きな喜びになり、やりがいのある仕事だと感じることもできました。実際に実習中にもトイレトレーニング中に排泄を初めてトイレですることのできた子どもの姿を見ることができ、先生だけではなく周りの子どもたちも一緒に喜んでおり、非常に貴重な瞬間に出会うことができました。幼稚園ではあまり見ることのできない生活習慣という面での支援や子どもの成長を直に見ることのできる保育所の魅力も感じることができました。

二つ目に、横のつながりだけでなく縦でのつながりや先生同士の連携の大切さを学ぶことができたことです。実習中は毎日異なる年齢のクラスに入る形で実習をさせていただき、どうしてもその日に入るクラスの年齢だけを意識した1日になってしまいましたが、常に先生方は縦の繋がりを意識して子どもたちと関わったり、保育の計画を立てたりしていると感じました。また、活動の一環や土曜保育で異年齢児との関りを見て、同じ年齢の子ども同士の間りだけではなく、異年齢での交流の大切さや意図についても学ぶことができました。異年齢の間わりから、お兄ちゃんやお姉ちゃんと呼ばれることで自尊心が芽生えたり、1ステップ上の遊びや活動の工夫をすることを子ども自身が子どもたちから伝え合っていく事ができたりする事がわかりました。このような姿を見て、保育所の役割を改めて考え理解を深めることができました。

最後に、保育実習を通して保育士の役割や資質や能力というものを直に見て感じ、学ぶことができました。大変さや難しさも多く感じましたが、それ以上に責任ややりがいが多くあり魅力のある仕事だと感じました。また、実習中に自分自身の人間性が子どもにも伝わっていくという言葉をいただき、とても心に残りました。子どもを保育していく中で、優しさや思いやり

にあふれた人間性を大切にしていき、子どもを第一に大切にできる保育者になりたいと改めて思いました。合わせて20日間という短い期間の実習でしたが、とても実りの多い保育実習となりました。